

## 佐賀の果樹 4月号 今月の管理（病虫害防除）

4月になると病虫害の防除も本格的に始まります。病気も害虫も、防除の適期を逃すとその後の対応が難しくなるので、自園の果樹の生育状況や病虫害の発生状況をこまめに観察して、適期防除に努めましょう。

また、今月はナシの黒星病の重点防除時期です。開花期前後の防除を徹底しましょう。

### <果樹類全般>

#### ○果樹カメムシ類対策

平成29年は8月中旬以降カメムシの発生が多かったため、今年は前半の発生が多くなると予想されます。今後の発生状況に注意しましょう。4月に発生が多いと、果樹園に多数飛来してカンキツやウメ、モモ、ビワなどの新梢や花、果実を吸汁して落果(花)させることがあるため、注意が必要です。

#### ○クワゴマダラヒトリ対策

近年、露地カンキツや露地ナシ、キウイフルーツ等において、クワゴマダラヒトリによる新梢の食害が問題となっています。雑木に近いところや雑草が多いところの樹に寄生が多くなるので、雑草や不必要な雑木などは早めに除去し、本虫の寄生を確認した場合は早急に防除を行いましょう。薬剤は、ダーズバン乳剤40（かんきつ、みかんに登録）やオリオン水和剤40（かんきつ、なし等にケムシ類で登録）の効果が高いです。特に本年は表年傾向で新梢の発生が少ない可能性があるため、防除を徹底して新梢の確保に努めましょう。

### <露地カンキツ>

#### ○そうか病対策

新葉の展葉初期（最も伸びた新梢が1cm程度の時期）は、そうか病の防除適期です。デランフロアブル1,000倍を散布しましょう。防除適期を逃さないように注意してください。展葉初期であればマシン油との混用もできますので、ハダニ発生園ではマシン油乳剤を200倍で混用してください。

ただし、かぶれの問題などでデランフロアブルを使いたくない場合は、ストロビードライフロアブルを散布します。単剤散布の場合は2,000倍で、マシン油乳剤200倍を混用する場合は3,000倍で散布してください。

#### ○かいよう病対策

発芽前から5月頃までがかいよう病の最も重要な防除時期です。中晩柑類や高糖系温州ミカン、温州ミカンの幼木園・高接園、前年に発生した園で、3月にボルドー剤を散布していない場合は、4月中下旬までにクレフノン200倍を加用した銅水和剤(コサイド3000の場合2,000倍、フジドーLフロアブルの場合1,000倍)を必ず散布してください。ICボルドー66D60倍をこの時期に散布する場合、単剤で用いると新葉に激しい薬害(葉やけ)を

生じる場合がありますので、必ずアピオン E 1,000 倍を加用してください。

#### <ハウスミカン>

##### ○ハダニ対策

収穫2か月前を目安にダニコングフロアブル2,000倍やバロックフロアブル2,000倍などを散布しましょう。散布ムラがないよう、丁寧に散布してください。

##### ○アザミウマ類対策

4月下旬頃から、ハウスのサイドの開放に伴ってアザミウマ類の侵入が始まります。侵入を防ぐため、ハウスサイドにアルミ蒸着シートや光反射シート織込ネットを設置しましょう。ハウスの周囲に1~2m幅のタイベックシートを敷くとより効果的です。また、アザミウマの種類によって効果の高い薬剤が異なりますので、トラップ調査を行って種の同定を行ってください。同定方法がわからない場合は普及センター、J A、試験場等に問い合わせてください。

表 ハウスミカンのアザミウマ類防除薬剤

アザミウマの種類	薬剤名	希釈倍率	収穫前日数
ミカンキイロアザミウマ	ウララ 50DF	5,000 倍	7 日前まで
	スピノエースフロアブル	4,000 倍	7 日前まで
	ダーズバン DF	3,000 倍	14 日前まで
	コテツフロアブル	2,000 倍	前日まで
ネギアザミウマ	スピノエースフロアブル	4,000 倍	7 日前まで
	ハチハチフロアブル	2,000 倍	前日まで

#### <ナシ>

##### ○黒星病対策

開花前後は黒星病の最も重要な防除時期です。時期を逃さず、防除を徹底しましょう。散布薬剤例を表にまとめています。SS は全列走行を実施し、葉の表裏両方に薬液が十分に付着するように散布してください。黒星病の発生が多い園（特に露地）では、薬剤散布間隔が10日以上空かないように注意してください。また、剪定枝や落葉などが園内にあると防除効果が上がりにくいので、早急に処分を行ってください。落葉処理をされた圃場でも、樹の周囲や園の隅に落葉が残っていることがありますので、このような部分も必ず確認して処理を行ってください。

詳細は、2017年3月号の特集記事「開花期前後のナシ黒星病対策」を参照ください。

表 ナシ黒星病防除薬剤

時期	薬剤名	希釈倍率	収穫前日数
開花直前	スコア顆粒水和剤	4,000 倍	14 日前まで
	アンビルフロアブル	1,000 倍	7 日前まで

	(多発生園ではベルコートフロアブルを加用する)	
	スクレアフロアブル 3,000 倍	前日まで
交配 3 日後	ベルコートフロアブル 1,500 倍 (発生が問題となる園では、DMI 剤を加用)	14 日前まで
落弁直後	スコア顆粒水和剤 4,000 倍 アンビルフロアブル 1,000 倍 (多発生園ではベルコートフロアブルまたはユニックス顆粒水和剤 47 を加用する)	14 日前まで 7 日前まで

#### ○疫病対策

4 月下旬から 6 月にかけて、降雨が続くと多発する病気で、新梢や果そう部を枯死させます(枯死部は黒変します)。本病の病原菌は土壤中に生息していて、風雨による土壌のはね上がりなどで棚上まで菌が運ばれ、新梢葉の特に柔らかい組織に感染します。過去に本病が発生した園には、土壤中の病原菌が多いと考えられますので、強風雨の後には必ずアリエッティ水和剤 800 倍等を散布してください。また、除草作業などは降雨時や降雨直後に行うと土壌とともに菌を跳ね上げてしまうので、晴れた日に行ってください。

#### <ブドウ>

#### ○黒とう病対策

萌芽直前(3 月下旬頃)から新梢伸長期(5 月上旬頃)の防除が非常に重要です。萌芽直前にはデランフロアブル 1,000 倍やキノンドーフロアブル 600 倍を散布されていると思いますので、今月も同様に防除を行います。ただし、展葉初期(展葉 2～3 枚ごろ)にデランフロアブルを散布すると葉に葉害が生じる恐れがあるため、展葉 2～3 枚ごろにはキノンドーフロアブルを使用してください。展葉 5 枚目ごろ、8～10 枚目ごろにはデランフロアブルやキノンドーフロアブル等を散布します。薬剤散布後に 150mm 以上の降雨があれば早急に再散布を実施してください。これらの薬剤は 4 月下旬から感染が始まる枝膨病に対しても非常に有効です。

#### <キウイフルーツ>

#### ○かいよう病対策

発生の有無にかかわらず、すべての園で必ず防除を実施し、発生を予防しましょう。

萌芽後にはコサイド 3000 2,000 倍(クレフノン 200 倍加用)等を散布します。

かいよう病の被害枝は早急に切除してください。切除に使用した器具はエタノール 70%、次亜塩素酸ナトリウム 0.02%等での消毒を徹底します。

#### <ウメ>

#### ○黒星病対策

展葉初期および展葉期は黒星病の重要な防除時期です。展葉初期にはトップジンM水和剤 1,000 倍を散布し、展葉期にはストロビードライフフロアブル 2,000 倍やオーソサイド水和剤

剤 80 800 倍などを散布します。